



デジタルデータ放送に向かって

アナログでは参入できなかったNHK

NHKと言えば、これまでは日本の放送業界の牽引車的な役割を果たしてきたという印象が強いのだが、アナログのデータ放送に限って言えば、そうした役割を果たすことは期待されていないかのようだ。NHKは1998年中にもデータ放送サービスに着手する予定だったが、実際にはBSデジタル放送の開始まで延期された。それも公共放送としての枠組みの範囲内ということ、サービス内容も制限を受けることとなった。

NHKのアナログデータ放送事業への参入が見送られた背景には、放送方式の規格や受信機などの技術的な面で統一が図られていない段階でNHKがデータ乗り出すと、その力量から言って影響が大きすぎるとの判断が政府側に働いたことによるものだ。さらには、受信料収入により経営を成り立たせているNHKが、専用端末の保有者という特定の人のみを対象としたサービスを行っているのかということも問題視されたようだ。

早い段階でNHKが参入してくることになれば、NHKの提供する規格や受信機が事実上の標準となってしまう可能性があり、受信機の種類や普及についての自由な競争が阻害されてしまうことも懸念されたようだ。こうした観点から、NHKに関しては規格や受信機についての考え方がある程度落ち着いてきた段階、すなわちデータ放送というサービスがそこそこ普及したころになってから参入させたほうがよい、またそうあるべきだとの判断がなされたわけである。そうこう言っているうちに、本格的なデジタル放送時代を迎えることになってしまい、アナログのデータ放送については、NHKは参

入せずに終わってしまったことになる。

NHKグループとしても、BS放送、さらには地上波放送のデジタル化に対応していくために、技術研究所をはじめすべての部門がそこに注力している。デジタル放送の究極の姿としてISDB(統合デジタル放送サービス)を追求しているところでもあり、データ放送事業も、デジタル放送への取り組みが本格化していくなかで自然と並行的に進められていくことになる。

衛星によるデータ放送

これまでのアナログの衛星放送でも、音声についてはデジタル信号で送られている。衛星放送を利用したデータ放送は、地上波とは異なって、一波で全国をカバーでき、同報性に優れ、各種のデータを高速かつ大量に配信できる場所がその特徴と言える。アナログのデータ放送については、BSでは94年に、CSでは95年に、それぞれ制度化された。

BS放送では、任天堂の関連会社の衛星デジタル音楽放送(通称セント・ギガ)が、95年4月よりスーパーファミコンを受信端末としてゲーム関連のデータ配信を行っている。また、CS放送では、アナログ時代から音声放送局のミュージックパードが「星のポケット」と銘打ったデータ放送サービスを97年6月より始めており、音声放送番組の予約受信録音や、シールプリント制作機の背景画像の配信、さらに最近ではレコード店に据え付けられた専用端末向けに、新譜情報やアーティスト関連の情報の配信を行っている。

一方、CSデジタル放送の開始に伴って、CSデジタル放送におけるデータ放送についても、96年の3月に制度化されている。多チャンネル放送には不可欠のシステムとなっているEPG(電子番組案内)は、CSデジタルでの典型的なデータ放送サービスと言える。

デジタル放送では、言うまでもなく電波の隙間を使うことは不要なため、データ放送を行う場合には、データを多重化させるのではなく、帯域の有効活用の一環ということになる。使用可能な帯域の中から、どれだけの分をデータ放送用に割り当てるかという問題になるわけだ。大きな帯域を割り当てれば、それだけ高度なレベルのデータ放送の実現が可能になる。

NHKが予定しているデジタルデータ放送のプログラム

気象情報、通勤交通情報	住んでいる地域などの天気予報をいつでも見ることのできる気象情報や、通勤時に役立つ鉄道などの交通情報。
ニュース	24時間いつでも見ることのできる最新の主要ニュース。
経済情報、スポーツ情報	外国為替や株価、関心の高いスポーツの途中経過や結果など。
地震・津波情報	地震・津波の情報を即座に提供。
福祉サービス	障害者や高齢者に向けた福祉関連サービス。
お知らせ・問い合わせ情報	番組関連の問い合わせ情報、NHKの広報情報など、視聴者向けの情報サービス。
番組デジタルサービス	双方向や付加情報など番組を見ながら楽しめるデジタルならではの新しいサービス。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp